五泉南小学校学校だより

南の風

令和５年４月２８日　　４月号

・巻頭言
・１年生を迎える会
・令和５年度職員紹介
・５月の予定　等

「自分のよさ」を認めるために

校長　若狭　陽一

新年度がスタートしました。登下校時の見守り活動や各学年の校外学習のお手伝いなど、新学期早々、多くの方々からサポートをいただいております。本当に感謝申し上げます。このように多くの方々から子どもに関わっていただくことは、子どもの成長に大きく寄与します。このことについて、皆様にお話しさせていただきます。

本年度の徳育に関する重点目標を「自分や友達のよさを認め、助け合って行動する子ども」と定めました。本目標の中でもまずは、「自分のよさ」を認めてほしいと願っています。「自分のよさを認める」は、「自信をもつ」という言葉にも置き換えられます。例えば、「自分は、クラスで一番大きな声で話せる」のようなものです。さらに、当校では、「自分はクラスで一番大きな声で話せるので、応援団に選ばれた。みんなの期待に応えられるようがんばりたい」というような一歩前進した「自信」を目指します。

他者の役に立った、他者に喜んでもらえた、・・・等、相手のよい評価に支えられた感情こそ、強固な「自信」につながり、そのことが、学校教育で目指す「社会性の育成」につながると考えるからです。

このように考えると、子どもたちにいかに多くの活躍する場面を与えるか、子どもたちをいかに多く認めるかが鍵となります。だからこそ、学校生活において、子どもは、友達、教職員はもとより、保護者、地域の方々等、他者との関わりの中で認められる必要があるのです。子どもを認める場面は、日常にたくさん存在します。その場面を見逃さないためにも、次の２点を大切にしていくことを全職員で確認しました。

① 子どもの行為を具体的に認めましょう

子どもを認める際に大切なのは、何がよい行為なのかを具体的に伝えることです。単に「すばらしい」ではなく、「〇〇できるなんて、すばらしいね。△年生でできる子どもはなかなか見たことがないよ」のように、子どもに分かりやすく伝えましょう。

② 結果だけではなく、よくなろうとしたことを認めましょう

大人でも、決めた目標を達成することは至難の業です。例えば、家庭学習〇分が定着できない子どもに対して、定着できたかどうかだけの評価ではプロとは言えません。わずかな変容を見逃さず、少しでも前向きな姿勢が見られたら即時認めていきましょう。

どの子どもも本来、認められたいと思っています。その子が認められたいと思っていることは何かを見抜き、そこに適切な言葉を投げ掛けていきたいと思います。そのためにも、保護者の皆様や地域の皆様と学校との情報交換が必要です。学校は、保護者、地域と一緒に力を合わせ粘り強い働き掛けをしていきます。本年度も、どうぞよろしくお願いいたします。